アドミッションポリシー「高校での学習について」詳細

高等学校学習指導要領との関連性や接続性

人間科学部

人間科学部での学修と、高等学校における教科等（現行の学習指導要領による標準的な教科等と科目名称を記しています）との関連性や接続性について以下に示します。
なお、普通科でも特色あるコースやクラスなどで学習している場合、専門教育を主とする学科や総合学科などの場合、現行の高校３年生とは異なる学習指導要領を適用している場合などにおいては、それら学習内容を下表に概ね当てはめながら考察してください。

学習指導要領 令和４(2022)年度 高校３年生の場合 教科等	科目	入学前に学習しておくことが望ましい内容／教科等との関連性や接続性
国語	国語総合 国語表現 現代文Ａ 現代文Ｂ 古典Ａ 古典Ｂ	人間科学部の学修では、人間(子どもを含む）の言語活動、言語表現を通しての芸術的感性の涵養に関わる科目「日本文学」「保育内容の理解と方法（言語表現)」「子どもと言葉」「子どもと昔話」「児童文化」等を履修します。 また、レポート作成、口頭発表、卒業論文執筆、実習日誌作成、保育現場でのコミュニケーションを円滑に行うために、現代の文章を幅広く読解し、そこから導き出した自分の考えを的確に記述し発表する力を身につける必要があります。そのため、「国語」教科においては、必履修科目「国語総合」のみならず、複数学年にわたり継続的に複数の科目を履修していることが望まれます。
地理歴史	世界史Ａ 世界史Ｂ 日本史Ａ 日本史Ｂ 地理Ａ 地理Ｂ	人間科学部の学修では、保育や福祉を含む古今東西の人間の文化史について学んでいくので、「地理歴史」も重要な基礎教養になります。 そのため、「地理歴史」教科においては、複数学年にわたり継続的に複数の科目を履修していることが望まれます。
公民	現代社会 倫理 政治・経済	人間科学部で学修する科目の多くは、人間（子どもを含む）を取り巻く社会の抱える課題を扱うものです（例：社会福祉、子ども家庭福祉、子育て支援等)。 こうした課題を含んだ現代社会の仕組みについて理解しておく必要があるため、「公民」教科においては、「現代社会」を履修していることが望まれます。
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学Ａ 数学Ｂ 数学活用	人間科学部では「人間科学入門」(「児童学コース」「人間総合科学コース」共通必修)、「教育工学」「学習科学概論」「心理研究法」「理工学と生活」(「人間総合科学コース」のみ必修」）といった科目を、必修もしくは選択として履修します。また、人間（子どもを含む）について学ぶ他の科目においても数にかかわる論理的な思考力を必要とします。そのため、「数学」教科は大切であり、少なくとも必履修科目である「数学Ⅰ」を深く理解していることが望まれます。
理科	科学と人間生活 物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 地学 理科課題研究	人間科学部の「児童学コース」では、子どもに対して生き物を中心とした科学的な興味関心を促す支援方法を学ぶ科目を必修・選択共に履修しますので、高校における「生物基礎」を履修していることが望まれます。 「人間総合科学コース」では「教育工学」「学習科学概論」「心理研究法」「理工学と生活」(「人間総合科学コース」のみ必修」)「理工学と生活」「生理学」(「人間総合科学コース」選択科目）を履修しますので、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から最低２科目を履修していることが望まれます。
保健体育	体育 保健	人間科学部の学修では「子どもの保健と健康」(「人間総合科学コース」必修「児童学コース」選択）「保育内容健康指導法」（幼稚園教諭免許必修）を学びます。そのため、「保健体育」教科は重要です。 また、「保健体育」教科を通じて、心と体を一体としてとらえ、自己の状況に応じて体力の向上を図り、健康を適切に管理する資質や能力を身につけていることが望まれます。
芸術	音楽Ⅰ～Ⅲ 美術Ⅰ～Ⅲ 工芸Ⅰ～Ⅲ 書道Ⅰ～Ⅲ	人間科学部の学修では、「音楽表現」「造形」「身体表現」等様々な活動を通して人間（子どもを含む）に対して芸術的感性の涵養を促す科目を必修としています。 特に「児童学コース」では、人間（子どもを含む）理解を深めるうえで、表現科目を大変重要視しているため、幅広く「音楽」「美術」「工芸」「書道」から複数の科目を履修していることが望まれます。
外国語	コミュニケーション英語基礎 コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語会話	人間科学部の学修では、外国語科目として英語を中心に８単位を修得します。 また、専門科目には、海外（オーストラリア、ニュージーランド等の英語圏）の保育について英語で学ぶ学部独自の「海外研修(1)～(3)」の選択科目があります。 これらの学修のためにも、「外国語」教科の、特に「英語」は重要であり、必履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」のみならず、３学年継続的に複数の科目を履修していることが望まれます。
家庭	家庭基礎 家庭総合 生活デザイン	人間科学部では、子育てやその環境、食にかかわる科目や福祉関係の科目を多く履修します。そのため、「家庭」教科は重要です。 また、「家庭」教科を通じて、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を体得し、人間科学部の学修全般にも有効な資質や能力として身につけていることが望まれます。
情報	社会と情報 情報の科学	人間科学部では、日常的にコンピュータを用いて学修を管理したり、ワードやエクセル等のソフトを利用した課題作成やインターネットによる情報取集、パワーポイントを用いての口頭発表などを行っていきます。科目としても、基礎的な「情報処理」を必修科目として履修します。 そのため、「情報」教科は重要であり、科目の履修とともにコンピュータへの関心を高めておくことが望まれます。
総合的な学習の時間		人間科学部の学修を進めるうえでは、「総合的な学習の時間」を通じて、横断的・総合的な学習や探究的な学習を経験することで、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、協働的な態度とともに、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけていることが望まれます。